

事業名	施設利用における インターネット抽選導入				
ジャンル	家庭教育 ・ 青少年教育 ・ 成人教育 ・ 団体育成				
日程	令和3年1月10日～	講師	なし	参加費	なし
対象者	志津公民館利用団体	参加者数 (延べ)	125団体	募集方法	公民館だより・掲示物等
趣旨	コロナ禍で利用者を集めた抽選会が開催できない状況のなかで、利用者への配慮と事務効率向上のため、現在使用している「ちば施設予約システム」の付帯機能の「電子抽選」を導入するもの。				
内容	①感染症の拡大や、今後予想される災害時においても、公民館としてサークル活動の場を安全に提供していく。 ②より多くの団体が公民館を利用する機会を得るための公平な仕組みを整える。				
工夫	利用者の多くが高齢者であり、その中にはインターネットに不慣れな方も多いことから、導入にあたっては丁寧な説明と周知期間が必要である。既に導入している自治体を参考とし、高齢者の切り捨てと誤解されぬように、準備期間でインターネット抽選の申し込み体験の期間を設け、実際に公民館のパソコンや利用者のスマートフォンで申し込みを体験してもらった。また、抽選会場に行かなくても、ネット環境があれば申し込み期間中なら時間や場所を気にせず申し込みができるため、安全で、便利であることをPRした。				
成果	申し込み体験に来た人へのアンケートでは、半数以上から理解できたとの回答が得られた。また、サークル内や家族がインターネット利用ができるという人が大半であるとの結果も得た。実際に1月に行ったインターネット抽選での参加サークルは125団体であった。コロナ禍で行っていた抽選会の平均参加数は77.8団体であったことから増加傾向と思われる。更に、これまでの抽選会では事前準備（データ作成や会場設営など）や、抽選会後も職員が申し込み内容などを入力する業務があった。ネット抽選に移行したことで今までよりも準備、業務に費やす時間は少なくなり、職員の負担も減った。				
課題	ネット環境が（スマホも含め）全くない方への継続的な対応が必要である。また、視覚障がい者が多く所属する団体に対しては、職員が隣で代理入力するだけでなく、どこからでも申し込みができるインターネットの利点を活かし、システム自体への音声読み上げ機能の実装をシステム提供元へのレベルアップ要望として行っていく必要がある。				

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	・公民館が行う必要があるか。 ・市民や利用者のニーズに合っているか。 ・目的や役割が薄れていないか。 ・事業の休止・廃止した場合の影響は大きいのか。
優先性	A	・事業の優先度は高いか。
公平性	A	・対象者に情報は流れているか。 ・受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	・期待通りの成果が得られているか。 ・さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 ・市民の満足度は高いか。
効率性	A	・事業の効率性はどうか。 ・事業運営に学習者が参画しているか。 ・他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。
特記	弥富公民館、根郷公民館においても、同時期に公民館施設利用におけるインターネット抽選導入を行った。申込期間や申込件数など、利用者の方が混乱しないよう、3館で調整をすすめ、同一の運用方法で行う事とした。	

《凡例》
良い ← A B C D → 良くない

《判定例》
 A } A B } A A } A A } A or B
 A } A B } B A } B B }

次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------

☆公民館運営審議委員付帯意見

(A：適切で成果あり B：成果はあるが、改善の余地あり C：要改善)

委員①		必要な取り組みである。ICT環境との関連により、他の手段も残される工夫にも着目されており、今後も継続していただきたい。
総合評価	A	

委員②		新型コロナウイルスの影響下でなくても、時代の流れでインターネットによる申し込みが主流になってくると思います。障がい者や機器のない方への配慮なども併用しながら、より便利で使いやすい予約システムを構築していただきたいと思います。
総合評価	A	

委員③		先進的な取組で、時代にマッチしていると思いました。 ただ、ICT活用に関しては個々のスキルに差があります。 そのことによる不平等感を解消していく手立てを講ずる必要があると思いました。
総合評価	B	

委員④		電子自動抽選システムが導入できて、職員さんのがんばりも見えていました。 利用者の皆さまへのご説明も大変だったと思います。
総合評価	A	

委員⑤		スマートフォンの普及は高齢者にも広がっている。窓口の他にホームページや広報紙にわかりやすい操作方法などの掲載で利用者増を図ってほしい。
総合評価	A	

委員⑥		コロナ禍はもちろんのこと、アフターコロナに於てもインターネット導入は適切であると考えます。
総合評価	A	

委員⑦		資料を開くと、導入の契機から実施に至る経過が簡潔かつ丁寧に記載されていて、感心しました。課題は何と言っても、不慣れな方々をどうフォローするかですね。これからも利用者の声に、最大限耳を傾けてください。コロナ後も各館共通に、しっかりと定着するシステムだと確信しています。
総合評価	A	

委員⑧		コロナ禍で密集を避けるために、利用者抽選会は、電子抽選の導入に改善した。しかし、高齢者の中にはインターネットに不慣れな方が多いことからインターネットで抽選申し込みの体験期間を設け、パソコンやスマートフォンで申し込み体験を行っている。 今後は申し込みに時間、場所を気にせず申し込みが出来るため安全で便利であることと、職員においても準備や業務の削減できるため事業の推進を期待します。
総合評価	A	

委員⑨		コロナ禍で三密を防ぐため、インターネット抽選は必要なものであり、今後は、IT弱者への対応が課題である。
総合評価	B	

委員⑩		従来の抽選会は、2ヶ月前に多くの団体代表者が集まり、2回分を申し込むためには抽選順番が悪いと約半日も時間を取られ、一部不満がありました。 インターネット抽選導入は、自宅のパソコンや個人のスマホで予約ができるので、一同が集まる必要がないため、コロナ感染への心配がなく、すばらしい予約システムだと思います。
総合評価	A	

委員⑪		志津の都市化は交通の便と相まって加速的なきおいで進んでいると思います。こうした中で新型コロナ対策を含めた活動に高い評価を感じました。ふるさとの古い歴史も知る、大切なことだと考えます。都市からの流入と地元の方々たちの近代（戦後）の志津の歴史を互いに知見し、その橋渡しをして、地域差や世代間の格差をなくす活動も今後、とても大切になると考えます。
総合評価	B	

委員⑫		志津公民館の事業というよりは社会教育課の業務ではないでしょうか。
総合評価	A	

委員⑬		アナログからデジタルへの切替は、必然性が高く、拡げてほしいです。
総合評価	A	

委員⑭		インターネットを使っでの申し込みは、世の中の流れであろうと思われます。それによって職員の負担も軽くなり、それに費やされていた時間を他に回せることも良いと思います。問題は機器を操作するのが不得手な方々へのフォローです。その方たちに不利にならないように配慮願います。
総合評価	B	

委員⑮		○公民館利用団体が公平にスムーズな利用ができる予約方法を得られることが、利用者にも職員にも有益であるとの評価はすばらしい。 △課題にも書かれていますが、ネット環境に不慣れな方や持たない方が、公民館から離れていけない手だてを今後も検討してください。
総合評価	A	